

令和6年度 北海道千歳高等支援学校

令和6年度北海道千歳高等支援学校「学校評価」結果の考察

～保護者・関係機関職員並びに学校職員による評価表集計結果より～

1 実施方法

(1) 対 象 北海道千歳高等支援学校全職員及び保護者、生徒、学校運営協議会委員

(2) 期 間 令和6年11月19日（火）～12月6日（金）（教職員・生徒）

令和6年11月19日（火）～12月20日（金）（保護者）

令和6年12月6日（金）～12月20日（金）（学校運営協議会員）

(3) 方 法

ア 評価項目による5段階評定

イ 自由記述

(4) 結果の処理

ア 評価項目による評定

① 5段階評定の回答に対して、それぞれ5～1ポイントを付与し、平均値を算出する。

② 各段階の回答率を算出する。

イ 自由記述

記述内容により、カテゴリーに分類する。

2 結果の集計

(1) 回収率

ア	学校職員	全体数	37名	回収数	37名	回収率	100%
イ	保護者	全体数	61名	回収数	51名	回収率	83.6%
ウ	学校運営協議会委員						
		全体数	10名	回収数	9名	回収率	90.0%
エ	生徒	全体数	62名	回収数	60名	回収率	96.7%

(2) 評価結果集計表

ア 評価設問による評定（学校職員 27項目）

イ 評価設問による評定（保護者 18項目）

ウ 評価設問による評定（学校運営協議会委員 11項目）

エ 評価設問による評定（生徒 10項目）

オ 自由記述（学校職員・保護者・学校運営協議会委員・生徒）

3 評価結果の考察の観点

(1) 評価の結果から、低数値を示す設問の内容について改善が必要であると考え、次のとおり考察する。

ア 学校職員及び保護者、関係者の平均値

イ 学校職員及び保護者、関係者のD及びEの回答率が10%を超える項目

ウ 学校職員及び保護者、関係者の回答なしの回答率が10%を超える項目

エ 学校職員及び保護者の平均値比較（差異、学校職員＞保護者）

オ 生徒の否定的回答率が10%を超える項目

(2) 自由記述内容の傾向

4 評価集計結果

(1) 学校職員

評価平均値が「3」未満の項目はない。

評価「D」「E」を合わせた回答率が10%を超えている項目は、3項目である。

設問2・組織運営「分掌及び事務、学科、学年の運営は、組織的に行われている。」の10.8%。

設問7・学校行事「本校における学校行事は、特別活動のねらいを踏まえ、生徒の実態や実施時期、日程など適切な取組となっている。」の10.8%。

設問22・働き方改革「効果的な教育活動に必要な時間を優先するため、それぞれの業務を効率的に協働して取り組むことができている。」の13.5%。

以上の項目は、評価平均値が低い項目と一致しており、本校における課題として捉えることができる。

今年度、教育課程改訂に取り組み、教育実践を含む教育活動に見直しの影響が出ているため、3つの項目で10%を超えたのだと考えられる。これらの課題は、今後も継続した取組が必要なため、教育課程検討委員会や運営推進会議を活用し、計画的に組織の在り方についても検討を進める必要がある。

(2) 保護者

評価平均値が「3」未満の項目はない。

評価「D」「E」を合わせた回答率が10%を超えている項目はない。

設問「D」に「C」を加えた回答率を見ると、10%を超える項目が、6項目ある。

設問7・道特教育「他者への思いやりや命の尊厳など、心を育む教育（道特教育）を意図的に実施していますか。」の19.6%。

設問11・社会参加「学校近隣の地域や施設の方との関わりなどを意図的に計画・実施し、生徒一人一人の将来の社会生活を考える活動となっていますか。」の19.6%。

設問 12・予算「教育活動の必要性・緊急性・優先度に基づいた計画的・効果的に執行されていますか。」の **21.6%**。

設問 13・危機管理「本校において、災害・事故・防犯などへの対策、対応を想定した環境整備や教育活動を行っていますか。」の **29.4%**。

設問 14・健康管理「生徒の健康を日常的に把握し、心身の病気の予防や早期発見に努め、生徒のストレス対応能力や健康管理能力の向上のための指導が適切に行われていますか。」の **23.5%**。

設問 18・PTA「PTA活動は、会員のニーズに応じた内容となっていますか。」の **19.6%**。

これらの項目は、現状の理解の不足や社会状況を鑑みた不安の表れとも捉えることができ、保護者への多様な説明の在り方やより効果的な働き掛け方とそのメディアの活用について具体的な方策を検討する必要があると考えられる。

危機管理や生徒の健康に関しては、安心で安全な教育活動の推進のためには、不可欠な項目であることから、学校・保護者・関係機関と連携を図る方策など、喫緊の課題と受けとめ、迅速な対応が求められる。

また、教育課程改訂に取り組んでいる現在、道德教育の指導の具体化、現場実習の教育課程上の位置付けや方法も含む教育活動全般の見直しにより、生徒にとって必要な学びの保障を前提とした検討を進める必要がある。

PTA活動については、本校の特徴から保護者の参加が難しい現状が窺えるが、学校・保護者・地域が連携した取組を推進していくことは、これからの本校の教育活動の一層の充実のために、重要なことであると考ええる。

(3) 関係機関

関係機関では、評価「D」「E」を合わせた回答率が 10%を超えている項目はない。

全ての項目において、「4」を超えていることから本校の取組について、高く評価されていると捉えることができる。また、学校運営協議会で昨年度より、5名の委員を増やしたことから、今まで以上に地域との連携した取組の広がりや様々な意見による新たな地域資源などの発掘が期待できるため、多様な教育実践の充実が期待できる。

(4) 学校職員及び保護者の評価結果の比較

保護者の 18 項目との比較では、全ての項目で学校職員より保護者の方が高い評価となった。

各項目の学校職員と保護者の差異は、「0.23」から「0.88」となっており、1 以内の差であることから、概ね保護者と教職員の評価が一致していると考えられる。差異が大きかった項目は、設問 7・学校行事、設問 26・センター的機能、設問 4・5 教育

課程である。

学校行事については、年度初めから保護者には説明を行い、理解をいただいた中で教育活動を行ってきたが、学校職員は次年度の学校行事の見直しを行っているため、保護者との差異が比較的大きくなったと考えられる。今年度は、スクールカレンダーの見直しを行っているため、夏季休業日の延長を行わずに教育活動を行ったが、保護者からは理解をいただいたと考える。令和7年度に向けた夏季休業日の5日間延長や行事の見直しなど計画的に検討を進めてきているが、今後も学校職員・保護者・地域の理解が得られるよう、検討を進めた上での、説明する場の設定など丁寧な取組が求められる。

センター的機能については、千歳・恵庭・苫小牧周辺の特別支援学校として期待される役割を今まで以上に担いながら、近隣の小・中・高校への支援も行い、必要とされる学校づくりを推進する必要があると考えられる。

教育課程については、課題を整理し、生徒の教育活動がより充実し、魅力のある高等支援学校となるように今後も継続した教育課程編成を進める必要がある。

学校職員の評価が比較的高く、保護者の評価が比較的低いために差異が大きくなっている項目が2項目あった。設問17・健康管理と設問20・人権尊重である。

健康管理については、学級・学年・養護教諭の連携を図る取組を推進してきたが、保護者、関係機関やスクールカウンセラーなどとの連携の拡充や健康管理、緊急時の迅速な対応のより強固な組織的な対応が可能となるよう体制整備を徹底し、保護者や地域に安心・安全な学校であると認められるよう具体的な取組を推進する必要がある。

人権尊重は、今年度職員一人一人が望ましい言動や服装を意識して取り組めたと評価できるが、保護者から見ると、まだ厳しい評価であると受けとめなければならない。引き続き、職員一人一人が意識を高め、生徒や保護者との関わり、日常の服装や言語環境などについて適切な取組を推進する。

(5) 生徒

生徒アンケートからは、否定的な回答が10%を超えている項目に注目する。

項目2「個別の指導計画を見て、自分の成果や課題が分かりましたか。」13.3%

項目5「先生はどの生徒にも公平に接していますか。」16.7%、項目7「友達がマナーやルールを守らず、困ったことがありますか。」10%となっている。

これらの数値は、各項目6名から10名が回答しており、各学年で平均2名から3名が回答していることになる。特に項目2・5に対するこのような考えの生徒がいることを重く捉え、授業と明確に関連付けた指導計画の作成・活用とニーズに適切に応じた個別の対応を行う必要がある。特に生徒への接し方については、公平性を持って関わり、教育活動全てはもちろん、登下校や休み時間、担当する学年以外の生徒と関

わるときなど職員一人一人が更に強い意識を持って取り組むことが求められる。

項目 10 の「大切だと思う授業や活動」については、大きな数値の変動はありませんが、「作業」「体力づくり」に続いて「数学」が挙げられた。反面、「社会」「理科」「同好会」の数値が減少する結果となった。この結果を各関係部署が分析し、今後の教育活動を進める上での参考にして具体的検討を進める必要がある。

(6) 評価項目集計に係る評価のまとめ

全体的に見て、平均値「3」を全ての項目で超えている結果となった。学校職員と保護者を比較して、保護者が学校職員の数値より低い数値の項目はなかった。

また、保護者で「C」「D」「E」を含めて 20%前後の回答の項目や学校職員の「D」「E」の回答が多かった 3 項目については、課題を明確にし、次年度の学校運営に活かせるように検討する必要がある。

5 「自由記述内容」の集計結果

(1) 学校職員による「自由記述内容」について

「改善が必要」に関する項目は、「組織運営」「教育課程」「学校行事」「ICT」「生徒指導」「予算」「危機管理」「研究・研修」「人権尊重」「働き方改革」「センター的機能」について記述があった。

評価項目の結果と照らし合わせ、関係部署などで具体的な方策として、検討する時の視点として反映させる。

(2) 保護者・関係機関職員による「自由記述内容」について

「改善が必要」に関する項目は、「教育課程」「道德教育」「人権尊重」「危機管理」について意見をいただいた。検討の参考にする。

(3) 「自由記述内容」の傾向について

学校職員は、「組織運営」「教育課程」に改善を指摘する意見が最も多く、「学校行事」「ICT」「働き方改革」と続いた。

保護者は、「教育課程」「道德教育」「人権尊重」「危機管理」について、改善を指摘する意見がそれぞれ一つずついただいた。